

COMPUTER NETWORK OF INSTITUTE FOR VIRUS RESEARCH

Institute for Virus Research LAN system (IVR-LAN) has administrated by the network committee consisted of five staffs (Prof. Yodoi, Prof. Akiyama, Prof. Toyoshima, Assistant Prof. Takemoto and Technical specialist Sagara). IVR-LAN service has covered for researchers in some medical departments as well as IVR and the primary purpose of IVR-LAN is to offer accessibility to the Internet in support of their studies.

IVR-LAN has provided a variety of network services, including E-Mail, WEB-mail, WWW, File-sharing, SSH and all Outgoing TCP services except for P2P. Main services are working on Sun Sparc platform with Solaris 8 and 10, DELL with Linux.

This year we have installed WEBDAV on the apache servers which are not permitted to access from Internet, in order to access and manage files and folders made on different platforms by researches in the institute. WEBDAV service is also used to update each laboratory's homepage which is introducing the laboratory information, research progress or detailed information of members.

IVR-LAN has equipped with Firewall and anti-virus checker. As the ex-Firewall had been used for six years, we replaced it and configured new Firewall machine using NAT enable. All communications between private IP addresses and outside ones are logged in a syslog machine.

However IVR-LAN has adequately equipped, we must have a responsibility for sending/getting data. A few accidents have occurred in this year. Many people just don't pay any attention to security before it might violate the safety. IVR-LAN users need to get certifications of training of e-learning course which is provided by Institute for Information Management and Communication of Kyoto university.

ウイルス研究所コンピューターネットワークシステム Computer Network of Institute for Virus Research

ウイルス研究所ネットワークシステムは、淀井教授、秋山教授、豊島教授、竹本助教、相楽技官より構成されるネットワーク委員会によって管理され、ウイルス研究所、附属ゲノム医学センターおよび医学部分子医学専攻の3部局が含まれる分子生物学実験研究棟、および動物実験棟へサービスを提供している。

本研究所 LAN は、SUN ワークステーション、LINUX サーバ および ウィンドウズサーバなどを用いて、電子メール・WWW・ファイル・ライセンスサーバ等を運用している。これまで情報伝達の高速性・機能性・安全性を満たすサービスの提供を第一と心がけてきた。

今年度は古くなったファイアーウォール機器のリプレースを行い、通信速度の高速化を実現した。機械の更新と同時に、ファイアーウォールの通信ログをログサーバが一元管理するように変更した。重要なネットワーク機器の交換は気を遣う作業であり、ユーザーに不便をかける事のないよう注意して行ったが、通信ポートの設定に若干見落としがあった事が反省点であった。

また今年度はWEB環境を活かしたサービスとして新たにWEBDAVを導入し、ウィンドウズマシンやマッキントッシュ、UNIXOS間で簡単にファイルの受け渡しができるようにした。研究室独自のホームページのアップロードや事務書類の掲示などにWEBDAVの利点が活かされたと思う。

ウイルス研LANは、認証送信サービスやWEBメールなど柔軟なメールサービス、アンチウイルス専用機によるイントラネットの保護、MACアドレス監視による不正アクセスの遮断対応、各種事務広報やセミナーの連絡掲示板など、本研究所で研究する様々な研究科の院生や研究者にとって便利で機能的なネットワークとなるよう管理運用されているが、このような研究活動支援としての役割に加え、研究所の知的情報資産を社会に還元していく広報メディアとしての役割をいかに果たすか、が今後の課題として残っている。

さて今年度は「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」にあわせて京都大学情報セキュリティポリシーが見直され改正された。新ポリシーは来年度から施行されるが、当研究所においても今後情報セキュリティポリシー実施手順書の見直しや情報資産の格付けなど再検討されなければならない。安全性の高いネットワーク運営のためには、ハードウェアの管理やOS・ソフトウェアの脆弱性の点検は必須である。だが、実際のトラブルに直面して思うことは、多くのトラブルは個人の不注意や無知に起因する。ネットワークに対する不正アクセスや著作権物の不正入手などを冒さないユーザーのモラルなど、我々管理グループだけでなくユーザー全体の意識向上が望まれる。京都大学情報セキュリティ e-Learning の受講率が100%になるよう今後とも啓蒙活動を続けていきたいと思う。